

令和 6 年度頭頸部超音波研究会

第 1 回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会

日時：2024 年 4 月 20 日（土曜日）

頭頸部超音波ハンズオンセミナー（愛知医科大学）2F 検査室

12:30 受付開始

13:00 座学（入門編講義）

古川まどか（神奈川がんセンター）総論 頭頸部超音波診断の基礎と臨床に関して総論を述べた。

寺田星乃（愛知がんセンター）頸部の超音波解剖について概説するとともに、甲状腺、リンパ節の超音波診断について、症例を提示しながら概説した。

福原隆宏（鳥取大学）咽喉頭の超音波診断について症例を提示しながら概説した。

13:40 14:10 ライブデモ＊ 古川まどか（神奈川がんセンター）健常者モデルを用いて頸部超音波診断のライブデモを施行した。特に、頸部全体を効率よく、もれなく観察する「系統的頸部超音波検査法」について詳細やコツについて説明を行った。

14:15 15:15 実習＊（ハンズオンセミナー）参加者が 5 グループに分かれて実習を行った

ハンズオンインストラクター：古川まどか、福原隆宏、寺田星乃、藤本保志、丸尾貴志

16:00 長久手会開会 301 講義室

16:10—17:10 講演 古川まどか クリニック診療に役立つ頭頸部超音波

耳鼻咽喉科・頭頸部領域の診療の中で、クリニックにおけるプライマリケアとしての当第一部超音波診断、ポイントオブケア超音波について概説し、実際の症例の中で、超音波を用いることで、医療の精度、安全性、医療コストが向上し、患者 QOL も高まること、インフォームドコンセントが即時に行えることで患者が安心して医療を受けられることを強調し、超音波の普及を推奨した。

令和 6 年度第 2 回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会

日時：2024 年 8 月 1 日（木曜日）19 時 00 分～20 時 00 分（ZOOM 開催）

2024 年度特集テーマ①「社会とつながる頭頸部超音波」（30 分（質疑含む））

「医工連携技術を活用した遠隔超音波技術者指導支援システムの検討」下出祐造（穴水総合病院 耳鼻咽喉科）

プロジェクションマッピングを活用した初心者、学生、研修医、専攻医向けの頭頸部超音波診断、頸部リンパ節超音波検査の実習プログラム、遠隔 WEB ハンズオンセミナーの試

みについて述べた。

「令和 6 年能登半島地震における日本超音波医学会災害時マニュアルに基づく携帯型超音波検査装置貸与のご報告」

下出祐造（穴水総合病院 耳鼻咽喉科）

令和 6 年 1 月 1 日の能登半島地震発生に際し、元旦にも関わらず、日本超音波医学会災害時マニュアルに沿って、災害地における超音波診断装置の配備、貸与手続きが速やかに行われ、災害による健康被害を最小限にとどめるためのスタートを切ることができた。多くの支援が速やかに終結したことに関し、時系列で報告するとともに、今後に向けての改善点についても提示した。

2024 年特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断の基礎と実践」(30 分（質疑含む）)

「診断に迷う頸部リンパ節疾患-この超音波所見をどう解釈するか? -」

古川まどか（神奈川県立がんセンター頭頸部外科）

頸部リンパ節には多彩な疾患が生じ、その中には悪性疾患の占める割合も多く、リンパ節そのものを詳細に観察し診断できる超音波診断の持つ役割は非常に大きい。B モード静止画、動画、カラードプラによる血流診断などを組み合わせた頸部リンパ節疾患鑑別について述べた。

令和 6 年度第 3 回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会

日時：2024 年 10 月 10 日（木曜日）19 時 00 分～20 時 00 分（ZOOM 開催）

2024 年度特集テーマ「多領域とつながる頭頸部超音波」(30 分（質疑含む）)

「免疫チェックポイント阻害薬による甲状腺機能異常」

寺田星乃（愛知県がんセンター 頭頸部外科）

現在、がん治療における免疫チェックポイント阻害薬は、多くの癌種で保険適応となり、広く用いられるようになった。その副作用として免疫学的有害事象の発生率が高く、特に皮膚炎について甲状腺炎の頻度が高い。血液検査で甲状腺炎をモニターする場合、採決の時期によっては、急性期での発見が遅れる可能性が高い。超音波では、甲状腺炎の状態を即座に発見することが可能で、甲状腺の腫大、血流亢進、その後の萎縮までの変化は数日で行くことができることが明らかで、超音波検査が最も感度の高い検査法といえることを報告した。

2024 年特集テーマ「頸部リンパ節超音波診断の基礎と実践」(30 分（質疑含む）)

「頸部リンパ節疾患-この超音波所見は病理組織の何をみているの?」

古川まどか（神奈川県立がんセンター頭頸部外科）

頸部リンパ節疾患では、それぞれ特徴的な超音波像を呈することが分かってきた。しか

し、それが、病理組織学的にみると何を見ているのかはこれまで明らかにされてこなかった。そこで、頸部リンパ節の超音波像と摘出後のリンパ節の病理像を比較することで、明らかにすることを目的とした。まずは正常リンパ節の解剖学的な構造と病理像を対比することで、リンパ節構造の基本について検討を行った。

令和6年度第4回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会

日時：2024年12月12日（木曜日）19時00分～20時00分（ZOOM開催）

2024年特集テーマ「頸部リンパ節超音波診断の基礎と実践」

特別講演（60分（質疑含む））

「頸部リンパ節の病理組織像」

市原 真 先生

JA北海道厚生連札幌厚生病院 病理診断科 主任部長

リンパ節の解剖、病理について、正常像、がんの転移、悪性リンパ腫、炎症性リンパ節腫脹などについて、詳細に解説を行った。また、生体内でのリンパ節の働きや、リンパ節内でのリンパ球の状態、リンパ流、血流に関する知見についても講義した。